

アイダ・B・ウェルズとニグロ・フェローシップ・リーグから見る
革新主義期シカゴの人種とジェンダー

研究概要

2019年2月、アメリカ合衆国シカゴのダウタウンに位置するコンGRESS・パークウェイという通りが、アイダ・B・ウェルズ・ドライブに改名された。この通りの名前の由来となったアイダ・B・ウェルズとは、19世紀末から20世紀初頭にかけての革新主義期のアメリカ合衆国において、主に反リンチ活動家として知られ、公民権や女性参政権をはじめとする黒人の平等のために戦った黒人女性である。しかし、ウェルズが成し遂げた仕事はアメリカの公的記憶の中で長い間忘れ去られていた。ウェルズは1895年に結婚と同時にシカゴに移り住み、シカゴの黒人コミュニティにおけるセツルメント活動を積極的に展開した。しかし、セツルメント活動は反リンチ活動のように注目を集めず、晩年は人々の記憶から消えていき、1931年に亡くなった時には、地元紙以外に死亡記事さえ掲載されなかった。

しかし近年、ウェルズと彼女の功績の記憶が人々の間で呼び起こされている。その背景には、アメリカで頻発する黒人に対する白人警察による暴力事件や、トランプ政権下での社会的分断状況がある。本研究は、アメリカにおけるウェルズに関する公的記憶の再構築の動きの中に、反リンチ活動に加え、これまで注目されてこなかったセツルメント活動を位置づけていく。更に彼女のセツルメント活動を分析することで、革新主義期シカゴにおける社会改革運動における人種とジェンダーの壁を明るみにしていく。

研究目的・研究意義

革新主義期に、主に白人中産階級女性によって推進された社会改革運動は「女性による制度の形成」が主流であったが、ウェルズのセツルメント活動は、これとは異なるものであり、当時の社会改革運動におけるジェンダー・階級規範から逸脱するものであった。また、ウェルズ自身も、当時の黒人女性の理想像は「淑女」であったが、白人を過激に批判するさまはこの理想像に当てはまらなかった。これが、ウェルズのセツルメント活動が立ちいかなかった要因と捉え、本研究ではウェルズが黒人男性を対象としてセツルメント活動を行った理由、またそのことによって彼女のセツルメント活動が注目されてこなかった背景について検証する。

本研究の意義としては、これまで研究されてこなかった革新主義期シカゴにおける、ウェルズのセツルメント活動に焦点を当てることで、20世紀初頭のアメリカ史研究における北部の白人を中心とする革新主義期の研究と南部のジム・クロウ体制下の黒人研究の間に繋

がりを見出せると考える。

研究方法

本研究では、ウェルズのセツルメント活動にはウェルズの生い立ちや、信仰していた宗教、ウェルズの友人が被害者となった南部でのリンチ事件、また南部でのジム・クロウ体制が強く影響していると考え、これを検証するために、ウェルズの日記資料を主に用いる。本研究にて一次資料として扱うウェルズの日記は、昨今エゴ・ドキュメントと呼ばれる個人の語りとなっている。こういったエゴ・ドキュメントを扱うことにより、公刊された文書からは読み取れないウェルズの個人経験に、より迫ることを可能にする。

主要な一次資料は、*Crusade for Justice*と*The Memphis Diary of Ida B. Wells*である。*Crusade for Justice*はウェルズの娘である、アルフレダ・M・ダスターによって、ウェルズの死後、出版されたウェルズの日記である。日記は1887年7月16日、ウェルズの25歳の誕生日に書き始められ、亡くなる4年前の1927年までの内容となっている。*The Memphis Diary of Ida B. Wells*は、1885年12月29日から、1887年9月18日までのウェルズの日記を編集したものである。

結論

ウェルズは革新主義期の人種やエスニシティに基づく国民秩序の形成に関わる社会改革運動における、ジェンダーや階級から逸脱する活動を行った。このような形態をとったウェルズのセツルメント活動を分析することで、革新主義期の北部において、黒人中産階級女性が置かれた人種とジェンダーの枠組みが見える。革新主義期の北部のセツルメント活動では女性のネットワークを基盤とする白人女性の活動が中心であった。しかし、ウェルズは黒人男性を対象にすることで、彼らの社会的な立場を向上させ、それが黒人全体の社会的向上や人種に対する忠誠心に繋がると考えた。そのため、このような形態をとったウェルズはクラブ継続のための資金を得られなくなってしまった。また黒人運動家という立場においても、ブッカー・T・ワシントンのように適応主義でなければ、白人富裕層の慈善家からの資金を獲得することが難しかった。

ウェルズのセツルメントの目的は、南部でのリンチ事件を目の当たりにしたために、同胞、つまりは黒人男性を支援することであった。ニグロ・フェローシップ・リーグの設立の契機となったのは、イリノイ州にて発生した暴動であった。ウェルズが南部の野蛮な現象と考えていた黒人に対するリンチが、北部で起きた現実には衝撃を受けたからであった。ウェルズが南部で経験した人種隔離とそれに基づく暴力が、北部にも広がっている現象に対応していく一つの方法として、黒人男性を対象とするセツルメント活動を展開していった。しかし革新主義期において「女性の領域」とされたのは、白人中産階級女性の改革者が推進していたアメリカ化運動、すなわち女性の連帯によって移民のアメリカ化を推進させていくような社会改革運動であったと示した。